

「事業名:福島復興知学の構築・展開・加速事業」 2019年度事業の概要

東京大学 連携市町村:楡葉町、飯舘村

現地拠点:双葉郡楡葉町下小塙麦入31楡葉町まなび館2階、相馬郡飯舘村佐須滑87(認定NPO法人ふくしま再生の会事務所内)

事業のポイント

1. 東京大学内7部局が協力して、福島復興知学講義の素材を集めて、教科書(副教材)作成の構想をまとめる。
2. 飯舘村と楡葉町に設置している東京大学の拠点を充実・拡張して、フィールドワーク実習と共同研究拠点として整備する。
3. イノベーション・コースト構想の事業成果と大学の「多様な知」を紹介する施設として拠点を活用する。

2019年度の取り組み内容

①福島復興知学講義の素材収集と教科書作成の構想

福島復興知学講義では、福島県浜通りでの教育研究活動で得た知見を体系化し、地元自治体と連携したフィールドワークを実施して大学生の教育を行うことを目標とする。そのため本年度は講義の材を収集し、教科書(あるいは副教材)作成の構想をまとめる。

②東京大学の浜通り拠点の充実と拡大によるイノベーション・コースト構想事業の長期的継続と拡大

浜通りに展開する東大の各拠点の連携を推進し、イノベーション・コースト構想に関わる幅広い分野をカバーできる拠点を形成を目指す。拠点では、福島復興知学講義の実習、大学内外の共同研究、地域住民への情報発信の準備を行う。

③国際化も視野に入れた、学内および大学等間の連携強化と教育研究の推進

拠点を東京大学内外の研究者に将来的に開放することを視野に入れ、本事業に賛同する研究者の新規参入や地元自治体・企業・海外機関等の参加を促す。

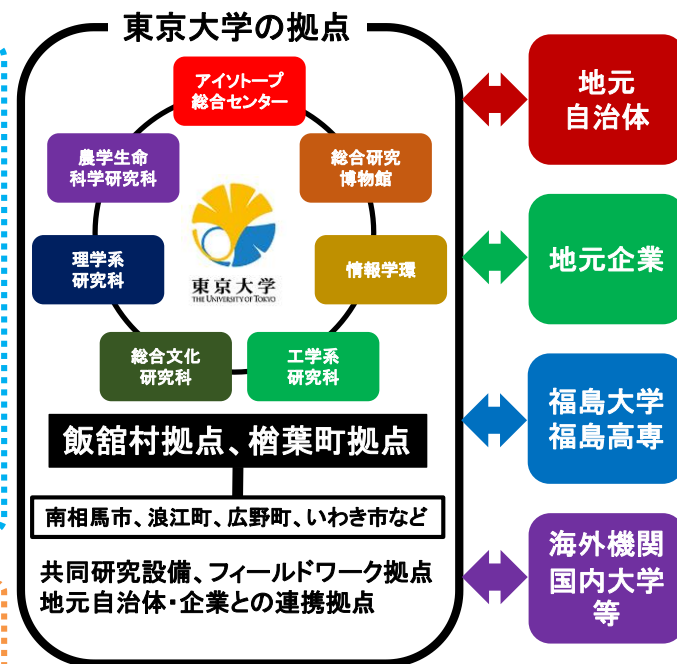
取り組みによって得られる成果

復興知に関連する新しい学問領域の創成

本事業を展開することにより、東京大学がこれまでの活動で蓄積してきた復興に関する多様な知識・ノウハウを体系化し、全国の大学等に提供することで、福島復興知学を構築できる。

復興知集積拠点の整備

複数の拠点を整備強化することで、浜通りフィールドワーク等の効果的な教育を実施する基盤を形成する。フィールドワークは地元自治体、企業、住民とも連携して実施するため、東京大学が浜通り関係者と持続的に連携し、関係を発展させる機会を作ることが可能となる。



本事業の概略図

飯舘村と楡葉町の拠点を充実し、その他の自治体にも展開する東大の拠点を連携させて、「復興知教育」と「イノベーション・コースト構想を推進する研究」を持続的に発展させる体制を構築する。また、拠点には成果や大学の「知」を情報発信するアウトリーチ機能も持たせる。さらに、国際化も視野に入れた活動を実施する。